



IJRU Rule Book

Competition Manual

Version 1.0.0....1.1.0

序文

この文章は IJRU ルールの最初のプレリリース版である。つまり、技術委員会が IJRU ルールにおいて小さなレイアウト変更のみ行われる可能性のある Ver1.0.0 として定めたもので、2019年7月の IJRU 総会で決定される予定のバージョンである。

2018年10月以降、IJRU 技術委員会は新しいなわとびのルールを作ろうと努力してきた。多くのアイデアが FISAC-IRSF や WJRF のルールに似ているかもしれないが、新しいルールも多く存在する。我々は次期ルールの強みと弱みを認識し、スポーツとしてのなわとびの歴史から見た皆様からのフィードバックと比較しようとした。このプロセス中に我々が ijru.sport に載せていたブログを皆様が追っていたことを願っている。もしそのブログを見たことがない方がいるのであれば、ご一読頂きたい。なぜならば、我々はこのルールブック中のルールについて詳細に説明し、なぜそのように決定されたのかをお伝えしようとしてきたからだ。

IJRU 技術委員会

1 TABLE OF CONTENTS

序文.....	2
2 ルールブック.....	5
2.1 公式バージョン.....	5
2.2 バージョンの番号付け.....	5
3 一般事項.....	6
3.1 抗議と異議申し立て.....	6
3.2 怪我と交代.....	7
3.3 開始順.....	7
3.4 棄権.....	7
4 大会.....	8
4.1 IJRU 大会構成.....	8
4.2 部門.....	8
4.2.1 性別カテゴリー.....	8
4.2.2 年齢部門.....	9
4.2.3 チーム人数.....	10
4.3 種目.....	10
4.3.1 個人戦種目.....	10
4.3.2 個人総合 Individual Overall Competition (ISRO).....	10
4.3.3 団体戦種目.....	10
4.3.4 シングルロープ団体総合 Team Single Rope Overall Competition (TSRO)....	11
4.3.5 ダブルダッチ団体総合 Team Double Dutch Overall Competition (TDDO)....	11
4.3.6 オールアラウンド総合 Team All-Around Competition (TAAC).....	11
4.3.7 ショー大会.....	11
4.3.8 表彰.....	12
4.4 登録、選考プロセス.....	12
4.4.1 世界選手権大会決勝選考.....	12
5 運営メンバー.....	13
5.1 ジャッジの資格.....	13
5.2 ジャッジ、ボランティアの推薦.....	13
5.3 ジャッジの割り当て.....	13
6 技術的基準.....	14
6.1 競技エリア.....	14
6.1.1 一般情報.....	14

6.1.2	フリースタイルフィールド	14
6.1.3	スピード、多回旋フィールド.....エラー!ブックマークが定義されていません。	
6.1.4	コーチボックス	14
6.2	装着品、ユニフォーム	16
6.2.1	ロープ	16
6.2.2	小道具	16
6.2.3	ユニフォーム	16
6.3	音楽	16
6.4	シグナル、音、コールアウト.....	16
6.4.1	タイミング	17
6.4.2	トーン	17
6.4.3	スタート	17
6.4.4	スイッチ	17
6.4.5	ストップ	17
6.4.6	タイムコール	17

2 ルールブック

2.1 公式バージョン

大会の前に、トーナメントディレクターはその大会で使用するルールブックの公式バージョンを指定する。これがその大会で使用されるオフィシャルバージョンとなり、あらゆる質問や論争を解決するために使われる。IJRU 世界選手権大会では、IJRU ルールブックの最新版が使われる。

2.2 バージョンの番号付け

バージョン番号は MAJOR.MINOR.REVISION で表され、増分は次のような意味を持つ

1. メジャーバージョン(MAJOR)は、以前のバージョンと互換性のない方法でルールが追加、削除、または変更された場合に使用される
2. マイナーバージョン(MINOR)は、意図した意味を明確にするために、後方互換性のある方法でルールが追加、削除または変更された場合に使用される(選手は過去の大会の結果と比較することができる。ジャッジはマイナーアップデートのみ必要とされる)
3. リビジョン(REVISION)は、誤字脱字の修正など、ルールにスタイルの変更が行われた場合に使用される

これに加えて、草案(draft)とプレリリース(pre-release)には、これらの段階の接尾辞”draft”と”pr”、およびバージョン番号が付けられ、MAJOR.MINOR.REVISION-draft.VERSION、および MAJOR.MINOR.REVISION- pr.VERSION となる。バージョン番号は 0 より大きい整数である。接尾辞がないものから draft、draft から draft、draft から pr、pr から draft への変更は、MAJOR-、MINOR-または REVISION レベルである。pr から pr への変更は REVISION レベルの変更にしかならない。pr から接尾辞のないバージョンへの変更では、内容の変更を含めることはない。

どのバージョンのルールブックを公開する際にも、変更が強調されたルールブックの写しがあるべきである。draft および pr バージョンでは、以前の pr、draft、または接尾辞のないバージョンと比較した変更を示さなければならない(優先順位はこの順番)。接尾辞のないバージョンの場合、最後の接尾辞のないバージョンと比較して変更を強調表示させる。

3 一般事項

3.1 抗議と異議申し立て

大会の主催者は、大会内での抗議や異議申し立てを聞いて決定を下すトーナメント委員会を指定する。委員会は、トーナメントディレクター(トーナメント委員会の議長を務めるが、投票権は持たない)と奇数の投票メンバー(少なくとも3人)で構成する必要がある。トーナメント委員会には1つの国から1人を超えて参加することはできない。少なくともシニアジャッジ、シニアスキッパー、技術委員会のメンバーがこの委員会に含まれていなければならない。トーナメント委員会は、以下に関する抗議を聞くことができる

- データ入力または計算間違いに関連するスコアの間違い
- トーナメントディレクターや他のトーナメント役員による決定で、不公平または公開されている IJRU ルールと矛盾するもの

下記の異議申し立ては受け付けられない

- ジャッジの決定や点数付け

判断を下すために、トーナメント委員会は大会運営の機器で記録されたビデオ再生を使用できる。

異議申し立てを行うには、次のプロセスを使用しなければならない

1. チームのヘッドコーチまたは指定された代表者がトーナメントディレクターと問題について話し合う。トーナメントディレクターは推奨事項を提案する(トーナメントディレクターはトーナメント委員会全体と協議することもできるが、これは必須ではない)
2. コーチ/指定された代表者がこの決定に同意しない場合、1時間以内にトーナメント委員会全体に上訴することができる
3. 異議申し立ての際、コーチ/指定された代表者はトーナメント委員会全員にその事案について伝える
4. トーナメント委員会は非公開で会合を開き、問題について議論し、投票する。トーナメントディレクターの当初の決定を覆すには、過半数が必要となる
5. トーナメント委員会の決定は最終であり、コーチ/指定された代表者に伝えられる

賞を与えた後に修正が行われた場合、選手は誤って与えられた賞を返す必要はない。しかし、スポーツマンシップを示して返却することができる。

3.2 怪我と交代

競技中に怪我などで交代が必要になった場合は、選手または登録されたコーチが競技を続行するかどうかを決定する。このエントリーは再試技されず、競技は行われた内容に基づいて採点される。

競技が行われる前の場合、登録されたコーチは交代依頼を書面で提出することができる。選手交代は予選/オールア라운드種目の場合、以下の条件を満たす必要がある

- 競技エントリーの年齢や性別の区分を変更できない
- そのエントリーの少なくとも 50%の選手が元の登録選手でなければならない
- 交代選手は元の選手と同じオールア라운드チーム(オールアウンドに残っている場合)または同じ国のチームのメンバーでなければならない
- 選手は予選/オールアウンドで同じ種目を 2 回競うことはできない

エントリーが決勝エントリーの場合、トーナメント委員会の裁量により、負傷または極度の疲弊の状況にある場合にのみ交代が許可される。

3.3 開始順

予選のエントリーの開始順は、部門ごとに分けてランダムに決定される。決勝での開始順は予選順位が低い人からである。

3.4 棄権

選手/チームがコールされてから 1 分以内に競技エリアに現れない場合は、その種目の「棄権」と見なされる。たとえ大会が予定されたスケジュールより早く行われていたとしても、競技の進捗状況を追跡するのは選手とコーチの責任である。

4 大会

4.1 IJRU 大会構成

IJRU の大会は、インターナショナルオープン大会 **トーナメント**(International Open Competition **Tournament(IOT)**)、ジュニア世界選手権大会(Junior World Championships(**JWC**))、シニア世界選手権大会(Senior World Championships(**WC**))で構成される。

ダブルダッチコンテスト 2020 は、日本ダブルダッチ協会(JDDA)の協力のもと IJRU2020 シリーズと共同開催され、JDDA のルールに沿って行われる。

シニア世界選手権大会は 2 ラウンドで構成され、残りのすべての大会は 1 ラウンドで行われる。シニア世界選手権大会では、選手は最初のラウンド(予選)でオールアラウンド総合と決勝に行く枠を決める。最終ラウンド(決勝)の勝者が世界チャンピオンである。

4.2 部門

4.2.1 性別カテゴリー

チーム種目では性別カテゴリーが以下のように定義される：

- 女性部門 全員が女性
- 男性部門 全員が男性
- 男女混合部門 最低 1 人の男性と 1 人の女性
- 性別不問 任意の組み合わせ

性別カテゴリーに関するガイドラインは、現在の IJRU の性別ポリシーを参照のこと。

1 人で参加するすべての種目には、女性の性別カテゴリーと男性の性別カテゴリーがある。

以下に記載されている場合を除き、すべてのチーム種目には女性、男性、および性別が混在するカテゴリー(男女混合)がある。男女混合部門では、少なくとも 1 人の女性と 1 人の男性選手が各種目に出場しなければならない。この基準を満たせなかった場合、その性別カテゴリーでは失格となり、該当する場合はオールアラウンド総合、シングルロープ団体総合、ダブルダッチ団体総合からも失格となる。

ショー大会とダブルダッチトライアッドフリースタイルでは「性別不問」のカテゴリーがあり、選手の性別に関する要件はない。1 つの性別の選手または異なる性別の選手で構成することができる。

ある種目がその性別カテゴリーで競われるためには、その種目の性別カテゴリーに 2 つ以上の国から 4 つ以上のエントリーがなければならない。もしある種目でこの要件を満たさない性別カテゴリーがあった場合、統合されるかクロスランク付けされる。性別カテゴリーでの統合、または、クロスランク付けの優先順位は以下の通り

1. 男性 → 男女混合
2. 男女混合 → 女性
3. 女性 → 男女混合

エントリーの結合

2つの性別カテゴリーの両方に十分なエントリーがない場合、その2つは結合されて、ランク付けは結合された性別カテゴリー内のすべての選手の間で行われる。

クロスランキングエントリー

1つの性別カテゴリーに十分な選手があり、別の性別カテゴリーにはない場合、十分な側の性別カテゴリーは通常通りランク付けされ、表彰されるが、少ない側の性別カテゴリーはより大きいグループに対して組み合わせてランク付けされ、表彰される。

4.2.2 年齢部門

年齢は、大会が行われる年の8月31日時点での選手の年齢とする。選手はこの日付での年齢を入力する。年齢は認証期間中に政府発行の書類と照合される。

インターナショナルオープン大会トーナメント(International Open Competition Tournament)

インターナショナルオープン大会トーナメントは、世界選手権大会と並行しての前に行われる1ラウンドの大会である。インターナショナルオープン大会トーナメントは次の年齢カテゴリーとなる：12-14歳、15-17歳、18歳以上、30歳以上。チーム競技において、チームの最も年齢の高い選手の年齢カテゴリーがそのチームのカテゴリーとなる。オープン大会インターナショナルオープントーナメントでは、どんな年齢の選手が混じっていたとしても出場できるということである。例外として、30歳以上のカテゴリーは全員が30歳以上でなければならない。30歳以上の選手は、18歳以上のカテゴリーに出場することもできる。

2020年シーズンでは、以前のシステムでの選手に対応するため、2020年9月1日から12月31日までの間に12歳になる選手は、インターナショナルオープン大会トーナメントに参加する資格がある。

ジュニア世界選手権大会(Junior World Championships)

ジュニア世界選手権大会に出場する選手は、指定された大会年齢カットオフ日の時点で12歳以上15歳未満でなければならない。

2020年シーズンでは、以前のシステムでの選手に対応するため、2020年9月1日から12月31日までの間に12歳になる選手は、ジュニア世界選手権大会に参加する資格がある。

シニア世界選手権大会(Senior World Championships)

世界選手権大会に出場する選手は、以下の例外を除き、指定された大会年齢カットオフ日までに15歳以上でなければならない

チーム競技において、グループのメンバーの少なくとも1人は15歳以上でなければならない。残りのメンバーは13歳以上でなければならない。世界選手権大会でチーム競技に参加する13-14歳の選手は、ジュニア世界選手権大会で同じ競技に参加することはできない。

将来的に、世界選手権大会での15歳未満の選手の参加は減らされるかなくなる可能性がある。

2020年シーズンでは、2020年9月1日から12月31日までに15歳になる以前のシステムの選手に対応するために、それぞれのNGBの予選イベントで15歳以上の年齢層の部に出場した選手は世界選手権大会に出場できる。

ショー大会(*Show Competition*)

ショー大会に出場する選手は、指定された大会年齢カットオフ日の時点で12歳未満であってはならない。

4.2.3 チーム人数

いずれかの団体総合(TSRO、TDDO、TAAC)に出場するチームは、4、5、または6人の選手で構成される。チーム人数に基づいた部門はない。

個々の競技へのエントリーでは、チームは競技が必要とする選手の数で構成される。

4.3 種目

これらのイベントは、ジュニア世界選手権大会と世界選手権大会で競われる。インターナショナルオープン大会 **トーナメント** で行われる種目は、利用可能な時間と場所に基づいて選択される。

4.3.1 個人戦種目

1. Single Rope 1x30 Speed Sprint (SRSS: 30秒スピードかけ足とび)
2. Single Rope 1x180 Speed Endurance (SRSE: 3分スピードかけ足とび)
3. Single Rope Triple Unders (SRTU: 連続3重とび)
4. Single Rope Individual Freestyle (SRIF: 個人フリースタイル)

ジュニア世界選手権大会では、連続3重とび(SRTU)は行われない。

4.3.2 個人総合 Individual Overall Competition (ISRO)

4.3.1 節に詳述されている種目のうち、個人総合種目には以下が選択されている。

1. Single Rope 1x30 Speed Sprint (SRSS: 30秒スピードかけ足とび)
2. Single Rope 1x180 Speed Endurance (SRSE: 3分スピードかけ足とび)
3. Single Rope Individual Freestyle (SRIF: 個人フリースタイル)

個人総合の資格を得るには、同じ選手がこれら3つすべての種目に出場していなければならない。

4.3.3 団体戦種目

1. Single Rope 4x30 Speed Relay (SRSR: シングルロープスピードリレー、4人)
2. Single Rope 2x30 Double Unders Relay (SRDR: シングルロープペア2重とび、2人)
3. Double Dutch 4x30 Speed Relay (DDSR: ダブルダッチスピードリレー、4人)
4. Double Dutch 1x60 Speed Sprint (DDSS: ダブルダッチスピードスプリント、3人)
5. Single Rope Pair Freestyle (SRPF: シングルロープペアフリースタイル、2人)
6. Single Rope Team Freestyle (SRTF: シングルロープチームフリースタイル、4人)
7. Double Dutch Single Freestyle (DDSF: ダブルダッチシングルフリースタイル、3人)
8. Double Dutch Pairs Freestyle (DDPF: ダブルダッチペアフリースタイル、4人)

9. Double Dutch Triad Freestyle (DDTF: ダブルダッチトライアドフリースタイル、5人)
10. Wheel Pair Freestyle (WHPF: ホイールペアフリースタイル、2人)

ジュニア世界選手権大会では、ダブルダッチトライアドフリースタイル(DDTF)は行われない。

4.3.4 シングルロープ団体総合 Team Single Rope Overall Competition (TSRO)

4.3.3 節に詳述されている種目のうち、シングルロープ団体総合種目には以下が選択されている。

1. Single Rope 4x30 Speed Relay (SRSR: シングルロープスピードリレー、4人)
2. Single Rope 2x30 Double Unders Relay(SRDR: シングルロープペア 2重とび、2人)
3. Single Rope Pair Freestyle (SRPF: シングルロープペアフリースタイル、2人)
4. Single Rope Team Freestyle (SRTF: シングルロープチームフリースタイル、4人)

同じチームの選手が上記のすべての種目に参加することで、シングルロープ団体総合の資格を得る。

4.3.5 ダブルダッチ団体総合 Team Double Dutch Overall Competition (TDDO)

4.3.3 節に詳述されている種目のうち、ダブルダッチ団体総合種目には以下が選択されている。

1. Double Dutch 4x30 Speed Relay (DDSR: ダブルダッチスピードリレー、4人)
2. Double Dutch 1x60 Speed Sprint (DDSS: ダブルダッチスピードスプリント、3人)
3. Double Dutch Single Freestyle (DDSF: ダブルダッチシングルフリースタイル、3人)
4. Double Dutch Pairs Freestyle (DDPF: ダブルダッチペアフリースタイル、4人)

各選手が少なくとも1つの種目に出場していなければならない。

4.3.6 オールアラウンド総合 Team All-Around Competition (TCAA)

1. Double Dutch 4x30 Speed Relay (DDSR: ダブルダッチスピードリレー、4人)
2. Double Dutch 1x60 Speed Sprint (DDSS: ダブルダッチスピードスプリント、3人)
3. Double Dutch Single Freestyle (DDSF: ダブルダッチシングルフリースタイル、3人)
4. Double Dutch Pairs Freestyle (DDPF: ダブルダッチペアフリースタイル、4人)
5. Single Rope 4x30 Speed Relay (SRSR: シングルロープスピードリレー、4人)
6. Single Rope 2x30 Pairs Double Unders (SRPD: シングルロープペア 2重とび、2人)
7. Single Rope Pair Freestyle (SRPF: シングルロープペアフリースタイル、2人)
8. Single Rope Team Freestyle (SRTF: シングルロープチームフリースタイル、4人)

各選手が8つの総合種目のうち少なくとも1つの種目に出場していなければならない。

4.3.7 ショー大会

1. Show Freestyle (SCTF: ショーフリースタイル、8-20人)

4.3.8 表彰

4.3 節で詳述されている種目やカテゴリーで 1 番目、2 番目、3 番目のランクの選手やチームが表彰される。1 番目のランクの選手(複数可)は、その種目やカテゴリーで IJRU 世界チャンピオンのタイトルが授与される。賞は部門ごとに別々に授与される。

カテゴリー(ISRO、TSRO、TDDO、および TCAA)の賞は、世界選手権大会オールア라운드/予選の結果に基づいて授与される。個々の種目の賞は、4.4.1 節で詳述されている世界選手権決勝の結果に基づいて授与される。

4.4 登録、選考プロセス

4.4.1 世界選手権大会決勝選考

世界選手権大会のオールア라운드総合/予選(第 1 ラウンド)における各イベントのトップ 6 選手/チームは、世界選手権大会決勝に選考される。

スピード種目の世界選手権大会決勝出場者を決定するために、6 番目のランクの選手/チームのスコアが再度計測される。その後、そのスコアからジャッジエラー限度 2 回以内のスコアを持つすべての選手/チームが再計測される。

ファイナルでの SRSE(3 分スピード かけ足とび)および SRTU(連続 3 重跳び) は、予選を通過したアスリートにとってオプションである。予選通過の選手は、予選通過が発表されてから 15 分後にファイナルの種目について再戦するか、代わりに予選スコアを保持するかを決定する。選手およびナショナルヘッドコーチ (または代表団のヘッド) は、彼らが行った選択を確認する署名を提供する必要がある。宣言が行われると、最終決定が行われ、変更は許可されない。その種目を再戦することを選択した選手は、そうすることが期待される。

再戦を決定した後、これらの種目のいずれかから棄権 (「スクラッチ」) した選手は、その種目から失格とし、結果で勝者を決定するために予選スコアは考慮されない。

5 運営メンバー

5.1 ジャッジの資格

あるジャッジカテゴリーにおいて IJRU 認定ジャッジになるためには、オンライントレーニング、ライブトレーニングを受講し、標準化された資格試験に合格することが必要となる。ジャッジは、次のジャッジカテゴリーの 1 つ以上に認定されることができる。

- スピード(Speed)
- プレゼンテーション(Presentation)
- ディフィカルティ(Difficulty)
- リクワイヤードエレメンツ(Required Elements)

それぞれの認定について、IJRU のウェブサイトにてさらに定義づけられた 3 つのレベルに認定される。

5.2 ジャッジ、ボランティアの推薦

ジャッジは 15 歳以上であることが望ましいが、これはトーナメント主催者が決定する。すべての IJRU トーナメントについては、ジャッジはジャッジの任命日時時点で少なくとも 15 歳でなければならない。

[ジャッジ推薦の要件と手順は、大会の詳細が発表されたときに最終決定される。]

5.3 ジャッジの割り当て

各ジャッジはトーナメント委員会によって割り当てられる。ジャッジの割り当てはトーナメントの前に各国の統括団体に提供される。ジャッジの割り当てはイベントが開始する直前まで変わる可能性がある。

1 つのジャッジパネルに同じ国から 2 名を超えるジャッジがいてはいけなない。それぞれのジャッジタイプに 1 つの国からは 1 人しかいることはできない(例えば、ルーティンプレゼンテーション、アスリートプレゼンテーション、ディフィカルティ、など)(もし異なる国からのジャッジが不足してこの基準が満たせない場合、トーナメントディレクターは例外とすることができる)。

同じジャッジタイプ(例えばディフィカルティやプレゼンテーション)の人がパネルで隣に座ってはいけなない。

6 技術的基準

6.1 競技エリア

6.1.1 一般情報

競技エリアは、高品質の木製のバネ付きまたはクッション付きのスポーツフロアである必要がある。

すべての競技エリアは、境界の外側から測らなければならない。

競技エリアの境界は明確な線で表示される。これらのマークの色は、フロアとフロア上の他の既存のマークとはっきり違いが分かる必要がある。

各競技エリアの間に2メートルの余白がある必要がある。

6.1.2 フリースタイルフィールド

フリースタイルのフィールドは12x12メートル四方である。

6.1.3 ショーフリースタイルフィールド

ショーフリースタイルのフィールドは会場大きさにより、最小で16x24メートル四方が推奨される。利用できるスペースはあらかじめ通達される。

6.1.4 スピード、多回旋フィールド

スピード、多回旋のフィールドは5x5メートル四方である。

6.1.5 コーチボックス

1x1メートルのコーチボックスが各スピードおよびフリースタイルフィールドの外側でコーナーの1つに配置される。

コーチボックスの四方のうちの一つはフリースタイルフィールドまたはスピードフィールドの一部でなければならない。

コーチボックスはジャッジやビデオリプレイ用カメラの視界を遮ってはならない。コーチボックス

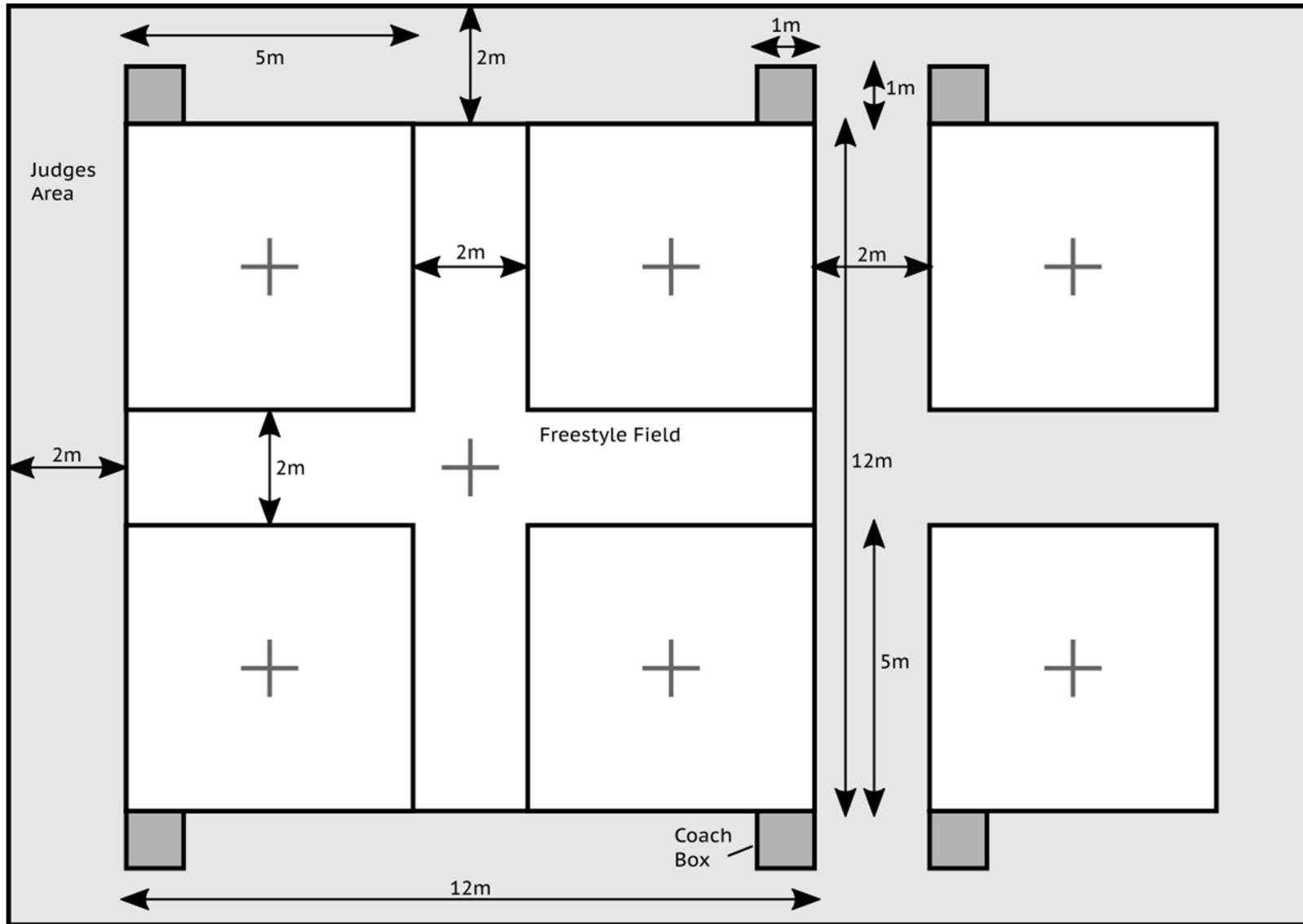


図1 4つのスピードフィールドを含む1つのフリースタイルフィールドの例。これはあらゆる方向に拡張できる。

6.2 装着品、ユニフォーム

6.2.1 ロープ

ロープは一般的に任意の長さが許可される。

競技エリアで許可されるロープの数は、ショーフリースタイルを除くすべてのイベントで制限されている。シングルロープとホイール種目では、ロープの数がその種目での選手の数を超えてはならない。ダブルダッチでは、最大1セットのロープ（2本のロープでセット）を使用できる。ジャッジマニュアルに詳述されているように、再試技の場合にはこの規則からの例外がある。

6.2.2 小道具

演技全体を通して身体に付いているものを除き、プレゼンテーションかつまたはディフィカルティを上げるための小道具又は特別な装着品は許可されない。宝飾品は選手の裁量と責任において許可される。

6.2.3 ユニフォーム

しっかりと足を支える運動靴を着用する必要がある。演技の間に選手の靴が脱げた場合、その競技者が靴を履いていない間は採点されない。

6.3 音楽

音楽がその種目の時間でカットされていない場合、認められる最大時間以上流してはいけない。音楽の長さは、最初の可聴信号からではなく、音楽ファイルの先頭から測定される。

その種目の認められる最大時間に（6.5.2に定義づけられた）ソフトビープが挿入される。

音楽は通常事前に提出する必要がある；ただし、音楽障害が発生した場合に選手は音楽をUSBで提供できるようにしておく必要がある。大会の前に音楽をテストする機会が提供されるべきである。

6.4 ビデオリプレイ

ビデオカメラは不正確なカウントが行われた時の再計測のためにそれぞれのスピード・多回旋ステーションに与えられる

ヘッドジャッジが不正確なカウントをトーナメントディレクターに報告したならば、トーナメントディレクターはそのイベントのビデオがジャッジによってスローで再計測されることをコーチボックスにいたチームのコーチまたは責任者に知らせる。もし、だれもコーチボックスにいなかった場合、ナショナルヘッドコーチまたは代表者に知らせる。

そのイベントは大会が続く間に競技フロア外で再計測される。そのイベントの再計測のジャッジのスコアが3回以内であれば、このスコアが最終のスピードスコアとして採用され、トーナメントディレクターは新しいスコアをコーチまたはチームの代表者に知らせる。

もし、選手またはコーチがビデオ撮影を阻害し、再計測が不可能な場合、その選手の2回目の試技は認められず、ジャッジによってカウントされたスコアが与えられる。

6.5 シグナル、音、コールアウト

6.5.1 タイミング

すべての時間はタイムトラック開始時のスタートビープの開始を基準にして測定され、別のサウンドの開始までの間測定される。

6.5.2 トーン

スタートビープは 578.3 Hz の矩形波として定義される。これは標準チューニング(A = 440 Hz)での D₅に相当し、0.350 秒間再生される。

スイッチビープは 493.9 Hz の矩形波として定義される。これは標準チューニング(A = 440 Hz)での B₄に相当し、0.350 秒間再生される。

ソフトビープは 0.350 秒間の 578.3 Hz の正弦波として定義される。

6.5.3 スタート

すべてのスピードタイムトラックは次のように開始する：

"<種目名> <種目時間> <1.000 秒 無音>Judges Ready? <0.500 秒 無音>
>Athletes Ready? <0.500 秒 無音> Set <0.500 秒 無音> <スタートビープ>"

ここで、<種目名>は "[<N> by] <Time> seconds" のように定義される (<N> times はリレー形式での種目の時のみ必要である)(例："four by thirty seconds"(30 秒を 4 回)または "one hundred eighty seconds"(180 秒))。すべての時間は秒単位である。

<種目名>は 4.3 節で定義されているように発せられる。

フリースタイル種目では、選手が紹介された後、少しポーズがあってから音楽が始まる。

6.5.4 スイッチ

スタートビープ/スイッチビープが鳴り始めてから所定の時間が過ぎ、リレー形式での次の選手の時間が開始される時、スイッチビープが鳴る。

6.5.5 ストップ

スタートビープ/スイッチビープが鳴り始めてから所定の時間が過ぎ、その種目が終了するとき、スタートビープが鳴る。

6.5.6 タイムコール

各セクションが 60 秒以下であるスピードや多回旋種目では、直近のスタートビープ/スイッチビープから経過した時間を 10 秒ごとに "<seconds>" の形式でタイムコールがある。

各セクションが 60 秒を超えるスピードや多回旋種目では、直近のスタートビープ/スイッチビープから経過した時間を 60 秒ごとに "<Minutes> minute(s)" の形式でタイムコールがある。これに加え、直近のスタートビープ/スイッチビープか(60 秒ごとの)分コールアウトから経過した時間を 15 秒ごとに "<Seconds>" の形式でタイムコールがある。

* 翻訳原文担当 岡本悠